



ILC誘致への期待や課題について意見交換するパネリスト



【仙台支社】仙台市で12日開かれた国際リーニアコライダー（ILC）シンポジウムでは、東北大学の研究者と千田精密工業（奥州市前沢区）の千田ゆきえ取締役の5人がパネル討論を行った。産業振興や国際化による地域づくりへの期待感が示される一方、中小企業がILCに関わるための連携体制づくりなど課題も出された。【本記1面】

地元企業の参入期待

仙台・シンポジウム

部品供給体制に課題も

ILCの稼働が見込まれる2030年の東北の在り方について、キャンパスデザインを手掛ける東北大の小貫勅子氏は「東北の風土や環境を踏まえた、自然豊かな研究環境を考えている。地産地消の観点から、東北の部品供給体制について、建設が決まった場合の課題について、加速器的設計に携わる東北大学院理学研究科の奥村誠副所長は「道路や港など運搬経路は、後々の維持管理や使い道も意識した、最小限で質の高いものを造ることが大事だ」と指摘した。

木材の活用や1次産業の海外発信など、大都市ではできない試みに取り組むエリアにしたい」と構想を述べた。

千田取締役は「ILCの建設、メンテナンスに東北の企業が携わることできれば、技術の高さを世界に発信できる。参入できるようアンテナを張る必要がある」と期待感を示した。

佐貫智行准教授は「規模の大きな実験施設なので、現地には部品の製造拠点だけでなく、国内外から部品を運ぶ手段や検品拠点が必要になる」と説明した。

交通工学が専門の同大災害科学国際研究所の奥村誠副所長は「企業がILCをビジネスチャンスとするには、自社の成長戦略にどう位置づけるかが大事。東北経済連合会には企業をサポートし、誘導する役割を期待したい」と提言した。